

主な活動の紹介

(1) 「児童生徒による授業評価」の実施

生徒指導の3機能を生かした授業づくりにかかわる質問事項の評価シート（各校共通）を用いて、授業評価を実施・集計しました。それを分析し、授業改善に生かしています。

(2) 保健体育科の出前授業

岐陽中学校の教員とともに3年生の子どもたちも一緒に小学校に出向き、集団行動の授業を共同で行いました。グループに分かれ、中学生が小学生に正しい姿勢や基本動作を教えながら交流を深めました。

(3) 「東川クリーン作戦」への参加

毎年恒例の地域行事に小学生・中学生の参加を呼びかけ、環境整備活動を通して様々な交流を深める場になりました。

(4) 「中学生夏休み学習会」の実施

岐陽中学校では毎年夏休みに、学習内容の定着をめざした個別指導や質問教室を開催しています。今年度は、小学校教員にも参加、指導をいただき、多くの中学生が懐かしさとともに充実した学習を行いました。



【保健体育科の出前授業】



【東川クリーン作戦】



【中学生夏休み学習会】

成果と課題

「魅力ある学校づくり調査研究事業」を通して、岐陽中学校区の小中連携が一層深まったことが一番大きな成果だと言えます。生徒指導の3機能を生かした授業づくりを進めることで、自分に自信をもつ子どもたちを育てること、他者を認め積極的にかかわり合おうとする子どもたちを育てていくことが、不登校の未然防止や社会的な自立を促すことになるという基本構想を、それぞれの学校が共通理解し、具現化する手立てを探りながら進めていることが、成果の要因の一つです。

課題として、地域との更なる交流については、まだ進化の途中であり、今後は地域の方々と子どもたちがふれあう機会を増やし、様々な行事や授業の在り方を更に工夫することで、子どもたちの心の変容を促すことが期待されます。

今後の取組

課題としている地域との更なる交流を進める際に、キーパーソンとなるのはコーディネーターです。平成25年度は、岐陽中学校にコーディネーターを配置し、校内担当者と二人三脚の形で、地域人材の発掘や各公民館との連携を深めていくことにしています。地域協育ネットでは、コーディネーター同士のつながりや、推進母体と地域とのつながりを大切にし、子どもたちの学びや育ちを見守る体制づくりをめざしています。子どもたちは地域の方々と多様なふれあいを通して、多くの考え方や価値観に出会い、「魅力ある」居場所を見つけ、信頼できる人物との絆をつなぐことができます。

「魅力ある学校」をめざす調査研究事業が今後さらに深化することが、中学校区内の学校間連携と地域との結びつきを強めていくことになり、岐陽中学校区の地域協育ネットの更なる推進になると考えています。